



あまりええ話のうて

この頃は気重じゃのう

いよう、これは珍らしい。けさがた婆さんがしきりに“あなた今日はきっと珍らしい方が見えますよ。障子に鳥影（とりかげ）が指しましたのでね……。”と云いおった。その珍らしい方というのが君だとは…。アハ…。まあ、そう変な顔をせんでもええ。それどころか、本当は誰か来て呉れんかと、心待ちにしとったところじゃった。この頃は、とんと出不精になってのう。駅前までさえたことがない。

何？それこそお年のせいでしょうと一とんでもない。こう見えても、1,000m級の山を跋涉したり、結構、相手のペースで酒席を勤めるくらい健康は持合せとるよ。アハ……。

ところで、今日の君の用件は？…と訊かんでも、君の顔に書いてある。雑誌の埋め草に、この儂（わし）の話（き）を聴（き）こうというのじゃらう。

と云うては見るものの、儂とて、これという格好なネタがある訳ではない。有ると云えば、春先からの異常気象が結局最後まで尾を引いた悪い話ばかり……。

10月15日現在で調査された、ことしの産米の予想収穫量は、とうとう1,085万8千トンと、9月15日現在の作況95を更に一段と下回って、93という、昭和29年の92以来の不作は決定的になったようじゃ。しかも、冷害による被害総額1,300億円、10月29日、農林省が公表したところによると、45年度の農業所得は50万8千円で、農外所得88万5千2百円と合計した農家所得こそ139万3千2百円と、44年度のそれに比べ11・5%の増加となつてるが、農業所得だけでは44年の4%減、農家所得に占める農業所得の割合（農業依存度）は36.5%と、44年度の42.3%に比べ実に6.8%も陥込んどる一というおまけまでついては、万年「強気」の儂も、さすがにこの頃は、農業問題を口にするのもいささか億劫（おっくう）になってきよった。イヤ、イヤこれは決して年のせいではのうて、気重い感じというたら判でもらえよう。

そう、そう、さっき昭和29年の不作と云うたが、あのときは28、29と続いた冷害年じゃったが、儂にはこんな

経験がある。

昭和29年は、たしか春先から冷え冷えとした天候が続き、そのまま梅雨に入ったが、その梅雨が明けるところか、6月中をほとんど降り続き、月替りの7月になったら止むと思いきや、そのまま12日までビショビショと降り止まず、7月の土用だというのに、なんと3月初旬頃の気温になってしもうた。

憶いおこす29年の冷害

盆の13日に、相衣を着込み小名浜へ

ちょうどその頃、先約があつて、儂は当時の日本水素工業を訪問することになった。約束の日は7月13日。ところが、いま云うたとおり12日も朝から雨。がっかりしながらも、旅装を整えて床に入り、翌朝目をさますと、何んと！12日まで低くたれ込めとった暗雲は跡方ものうて、盆の13日にふさわしいカンカン照りと相成つた。

ところが、その朝、上野駅へ急ぐ儂のいでたちは如何一と見てあれば、下着は相の上下それも長めの物、服も相の上下にチョッキ、その上に更にスプリングコートをはおつて、暑さを感じないどころか、列車内では、意識して陽光の照る窓ぎわに席をとり、スプリングコートを着たまま、腕を陽光に当てていると、ようやく温みを感じるという有様じゃった。こんな風じゃから、上野を出て鶯谷（うぐいすだに）下を列車が通る頃には、窓という窓を全部おろさねばならなんだ。なぜか？窓をおろさなんだら、寒うてかなわんのじゃよ。

あの年一昭和29年の冷害も、主として関東以北が激甚じゃったが、いま云うたとおり、その冷涼さたるや、7月のさ中に相の装束で身を固めようとは、さすがの儂もびっくりしてしもうた。

周期的にみて、気象の異常はまだ当分続くものと見なければなるまい。米がダメなら麦という訳でもあるまいが、この頃“麦を作りましょう”というようなムードが出はじめとるようじゃが、あれがダメならこれ、これがダメならそちで行こう一式の発想で、農政をあげつらうべきではないと儂は思うがどうじゃ。

と云うて、儂は今度農林省が野菜の生産と消費を担当する野菜部のほか、現在、農林経済局内にあつて食品行政を担当しとる企業流通部（5課）とて流通局を新設するという話を、とやかく云うつもりはない。ないどころか、今からでも遅くはない一と云いたいところじゃが、食品流通の現実、今日あまりにも問題が多すぎる。

こうした機構の新設や、それに伴う配置替えをしたところで、問題点の一端でも解決できるかどうか、何んどのうその点が気がかりじゃなあ。

まあ、この話はこのくらいにして、肥料が作物別にど

う消費されとるか、ちょっと検討してみよう。

肥料の需要低下傾向も

この辺で底を衝くか？

いちばん注目されるのは、何と云うても米と麦。この2作目の窒素肥料の消費量割合を示すと、ご覧のよう

	米	麦	に、米、麦ともに33年を基準として、年々消費量割合が低減し、46年度はこれまでの最低になろうと云われとる。これは窒素肥料と云うても化学肥料分限り、都道府県肥料需要調査から算出されたものをあげた訳じゃが、これに引替え、いわゆる成長作物と云われとる野菜、果樹、飼料作物はと見ると、この
昭33年	46.3	18.5	
39年	40.7	14.0	
40年	42.0	11.0	
41年	38.1	9.0	
42年	39.1	7.8	
43年	39.4	6.4	
44年	40.1	5.8	
45年	38.6	5.2	
46年	34.6	3.9	
	果樹	野菜	飼肥料作物
昭33年	11.0	4.9	0.7
39年	13.4	7.5	3.7
40年	15.3	9.2	4.6
41年	16.2	9.9	6.3
42年	16.3	10.6	6.4
43年	16.8	11.5	6.5
44年	18.4	11.3	6.7
45年	19.4	11.5	6.2
46年	21.4	12.3	7.6

通り数字はこれら3者の位置づけをハッキリと示しとるのが判る。特に野菜の消費量は46年は33年度の約2倍、果樹は同じく約2.5倍、飼肥料作物に至っては、41年以降経過中の動向は6.3~6.7%と横ばいながら、46年の消費量割合は33年に比べると、実に10倍と著増しとる。

一般的に、米生産調整が避けがたいものとなってから、肥料消費量は低減の傾向を免れんようじゃったが、最近の情報によると、肥料の消費傾向は、46年度を底として一気に上昇気運をたどらぬまでも、これ以上悪化することはあるまいと云われとるようじゃ。

農もそのように考えたいが、ここで指摘しておきたいのは、一般的に粗大有機物の給源が不足しとるということ。これは、むしろ労働力の不足によるものであろうとする意見もあるが、これは肥料を供給する方と、消費する方とで真剣に考慮を要する重大な問題じゃと思う。問題は、再び原点に立帰ったということになるかのう。

果樹生産費中に

肥料費はどのくらい占めるか

さて、最後に君の取材の参考になるように、農林水産統計速報から、44年度の各種果樹類の地代資本利子を算入した10a当りの第2次生産費中に占める肥料費をあげてみよう。

これで見ると、各主要果樹に10a当りどのくらい肥料が投下されとるか、また地代資本利子を算入した第2次生産費に対して、どの程度の割合になつとるかが判ろう

これはもっと詳細にデーターを上げて説明する必要があるが、そこまで触れたら1回で済ます訳に参らん。

それでは話はこの辺できり上げて…実はとって置きの“菊正”の特級がある。老妻もそれを承知で、酒菜（さかな）をみつくろいに出かけたらしいから、まあゆっくりしてチクとやって行き給え。

種 類	集計戸数	肥料費	第2次生産費
温州みかん	382	13,886	116,314
普通温州	325	13,996	117,029
早生温州	80	13,280	117,514
夏みかん	24	15,896	90,885
はっさく	19	15,198	100,885
ネーブル	10	28,378	119,601
伊予柑	5	15,025	119,643
りんご	169	7,377	97,730
国 光	96	7,566	99,429
紅 玉	81	6,383	86,109
スターキング	35	7,656	95,111
ゴールデンデリジャス	7	5,044	137,595
デリジャス系	17	5,919	114,550
も も	96	8,850	106,136
大久保	60	7,212	95,283
白 桃	18	10,876	118,215
倉方早生	12	8,188	90,865
缶 桃	7	4,800	72,387
日本なし	94	12,387	159,582
二十世紀	58	11,697	179,007
長十郎	39	13,248	135,041
西洋なし	9	5,484	70,782
ぶどう	107	9,057	146,109
デラウェア	24	7,410	105,490
同ジベ処理	31	10,483	157,809
キャンベルアーリー	13	5,874	123,380
マスカットベリーA	13	7,335	129,965
ネオマスカット	15	11,184	143,170
温室ぶどう	5	16,747	624,161
柿	68	10,552	76,412
び わ	5	15,163	86,828
く り	31	2,610	23,414
う め	3	6,868	66,178

(温室ぶどうは建造物の建坪面積330㎡当り)